

## 国連プレスリリース

### アナン事務総長「水と衛生に関する諮問委員会」開会の挨拶（仮訳）

ご列席の皆様、おはようございます。そして、ようこそ。皆様にお会いできて大変光栄です。

橋本総理には「水と衛生に関する諮問委員会」の議長をお引き受けいただいたこと、また、ご列席の皆様には諮問委員会の委員をお引き受けいただいたこと、心より感謝申し上げます。皆様は、多様でかつ高いプロファイルのグループであり、それぞれが独自のものを議論に持ち込まれることでしょう。

世界中で安全でない飲料水と貧弱な衛生設備が、ひどく莫大なコストをもたらすことについてはよく知られているところであります。今日、6人にひとりには衛生的でない水を飲んでいますが、3人にひとりには適切な衛生設備を利用できません。そして、今日も約1万人の人が、この回避できるはずの状況の中で命を失っています。

これは受け入れがたいことです。世界はこれが受け入れがたいことであることを認識しています。そして、もし水と衛生に関する問題を解決しなければ、効果的な開発戦略を立てることができないことも認識しています。だからこそ、2000年のミレニアム宣言や2002年のヨハネスブルグにおいて、コミットメントがなされたのです。コミットメントは、2015年までに安全な飲料水と基本的な衛生設備を持続的に利用できない人の割合を半減させること、2005年までに統合水資源管理及び水効率化の計画を策定することを謳っています。

最近の持続可能な開発委員会第12会期の高級レベル会合の結果報告によると、いくつかの国が2015年までに安全な飲料水を利用できない人の割合を半減させるための軌道に乗っています。他方、その他の多くの国は、進展を図らない限り、目標を達成することができないでしょう。そして、多くの国が、地方でも都会でも、急激な資源の増加と努力の増進がない限り、2015年までに基本的な衛生設備を利用できない人の割合を半減させるための軌道に乗っていません。いくつかの国は、2005年までに統合水資源管理及び水効率化の計画を策定するという目標を達成するであろうことが期待されています。しかし、その他の多くの国は、その目標を達成するためには、更なる技術支援を必要としています。

もちろん、水と衛生に関する問題においては、多くのよい仕事の実施されています。最良の仕事は、効率的で責任ある公的機関が存在し、政府がコミュニティを政策決定過程やプロジェクトの実行に参加させ、また公平性への純粋なコミットメントが存在するところで行われています。そして、国際システムを通じて行われていることも多くあります。

国連も深く関わっていますし、NGO もよく働いています。民間セクターも重要な役割を担っています。

どの仕事も素晴らしいですが、それだけでは十分ではなく、影響力を強めるためには、さらに重点化の余地があります。そこが、皆様に今までと違ったものをお願いする点です。私は、水と衛生に関する合意された目標は、定められた時間枠の中で達成できると信じています。重要なのは、より迅速かつより多くの場所で、測定可能な改善を図ることです。それには、政治的意志、あらゆるレベルでのガバナンスの強化、そしてより効率的な資源の動員及び活用が求められています。私は皆様が、統合された戦略手法により、これらの欠如している要素を作り出す支援をして下さることを望んでいます。

私は皆様に、次の4つの分野に焦点をおいていただくことをお願いしています。

1. 水と衛生の目標に向けてどのような進歩がみられ、またどのようなことが十分に行われていないかを評価する。
2. 世論の問題意識を高めることによって、また各国政府、市民社会、メディアにともに行動を呼びかける唱導者になることによって、水と衛生を政治的にもっと目立つようにする。
3. 水と衛生についてのアジェンダを前進させるために、より多くの人的及び資金的資源を動員する。
4. 政府及び関連国際機関にデータおよび統計資料の質を維持向上するよう、また政策および活動のモニタリング能力を強化するよう促す。

このゲームは、新しい計画を策定するためのものではなく、既存の計画を実施し、合意された目標を達成するための努力の促進を図るためのものです。オカンボ経済社会事務局次長が、皆様と共に働き、諮問委員会のための事務局としての支援を総括いたします。

もちろん、皆様は非常に多忙な方々ですので、1年に1回か2回しか一堂に会する機会はないでしょう。皆様の作業は、最高の影響力を与えうるような方法で組織化される必要があります。その方法は、可能な範囲で最良に事が運ぶように、皆様にお任せいたします。しかしながら、その過程では、常に最もオープンで率直で独立した助言を私に与えてくださるようお願いいたします。

この困難で危機的に重要な任務をお引き受けくださったことに、改めてお礼を申し上げます。皆様の支援を頼りにし、そして皆様と共に、本当の違いを生み出せることを望んでいます。